

## 子どもたちの笑顔あふれる児童館に

新しい厚木北児童館がオープン



竣工式でのテープカット

6年の鹿野広太さんは「以前の児童館がなくなるときは悲しかったけれど、新しい場所ですごく元気に遊びたい」と笑顔を見せました。

利用しやすくなりました。竣工式に参加した厚木小

は初となる小規模菜園も備え、収穫体験なども予定

老朽化や車の往来の多さなどの課題から新築移転工事が進められていた厚木北児童館が完成し、3月に竣工式を開催しました。新しい児童館は厚木小学校に隣接。段差のない構造で、和室や図書室、遊戯室などがあります。さらに市内の児童館では初となる小規模菜園も備え、収穫体験なども予定



## 自転車で地域の魅力を満喫

七沢・大山・宮ヶ瀬を巡るサイクリングマップを公開

市内から大山、宮ヶ瀬湖周辺へのサイクリングを楽しんでもらうため、特設サイト「厚木deサイクル」を開設し、スマートフォン向けのマップを公開しました。

マップは、東丹沢七沢観光案内所を起点に、市内を巡る初心者向けから、宮ヶ瀬湖を一望



市内の景観を楽しみながらサイクリングできる

コースを用意。グルメや温泉など寄り道できるスポットも掲載され、サイクリングと併せて周辺地域の魅力が楽しめます。初級の市内周遊コースを体験した常盤真樹子さん(妻田東)は「歩くよりも風が感じられて気持ちいい。マップがあると知らない道でも安心して楽しめる」と話しました。

## 多様性を認め合う世の中へ

パートナーシップ宣誓制度で2組が宣誓

2組目に宣誓した柳原麗菜さん(33)は「パートナーの証明となるものがもたらえて素直にうれしい。まだまだ法的な制約が多いので、誰もが普通に暮らせる世の中になってほしい」と話しました。



宣誓に訪れた柳原さんら

う関係を宣誓することで、市が二人の関係を公的に認めるものです。宣誓し要件を満たすと、市営住宅への入居申し込みや災害弔慰金、災害見舞金の受給などができるようになります。

性的少数者や事実婚をしている人の生きづらさの軽減と性の多様性への理解促進に向け4月に導入した市パートナーシップ宣誓制度で、8日までに2組が宣誓しました。制度は、人生のパートナーとして協力し合う関係を宣誓することで、市が二人の関係を公的に認めるものです。宣誓し要件を満たすと、市営住宅への入居申し込みや災害弔慰金、災害見舞金の受給などができるようになります。

## カーボンニュートラルの実現へ新たな一歩

EVごみ収集車1台を導入

電気(EV)ごみ収集車を導入し、3月に市環境センターでお披露目式を実施しました。

車両は、脱炭素社会を目指す市と三菱ふそうトラック・バス株式会社、新明和工業株式会社の3者が締結した協定に基づき、開発・製造が



協定を結んだ3者の代表がお披露目式に参加

進められてきました。車体は白と緑を基調に、太陽光パネルや風車などのイラストをラッピング。収集したごみを燃やして発電した電力をエネルギー源として走ります。EVごみ収集車は、3月15日から収集に当たっています。小林市長は「2050年カーボンニュートラルの実現に向けて新たな一歩を踏み出した。EV車を街中で見た市民の方にも、環境への取り組みを意識してもらえれば」と話しました。



第7回

みんなで! SDGs

持続可能な社会を目指す世界共通の目標「SDGs」。その達成のために17の目標を知り、できることから実践しませんか。

### 目標1 貧困をなくそう

世界では、子どもたちの6人に1人が「極度にまづしい」暮らしをしています。地球上のあらゆる形の貧困がなくなる社会を目指しましょう。



できる取り組みは?



### 寄付をしよう

寄付は私たちがすぐにできる取り組みで、日本にいながら海外の方を支援できます。お金だけでなく、食材を子ども食堂に届けたり、使わなくなった眼鏡や文房具を途上国に送ったりすることも寄付の一つです。

### ボランティア活動に参加しよう

募金の呼び掛けや子どもたちへの学習支援など、身近なところで取り組めるボランティア活動はたくさんあります。できることから始めてみましょう。

企画政策課 ☎225-2450



たくさんの皆さんに支援いただいた街頭募金

罪のない人々の人権を踏みにじり、命を奪う軍事侵攻は許さない。今年2月、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻のニュースが世界中を駆け巡りました。多くの民間人が犠牲になり、連日の報道を目にするたびに強い憤りと心の痛みを感じます。平和を脅かす行為に抗議を表明するため3月10日、①ウクライナの自国を守る行動への支持②ロシアの侵攻に対する非難③ロシア軍の即時撤

退いを求める声明を発しました。併せて街頭などの募金活動も実施。274万円の浄財を寄せていただき、国連難民高等弁務官事務所を通じてウクライナの地へ届けました。避難民対策としては、市営住宅の確保や相談窓口の設置、就学・就労支援などの受け入れ態勢を整えました。現在までに避難を希望する方の情報はありますが、いつでも対応できるよう備えています。ウクライナ情勢は、遠い外国の地で起きている「対岸の火事」ではありません。「国際平和と核兵器廃絶を求める都市」に住む一人として、今を共に生きる人々が受ける理不尽に怒り、身近な出来事として行動していきたいと思っています。